



北大阪健康医療都市

健都

(2) 「試行的研究会の目的と進め方、参加方法等説明」 13:05~13:25

第2回 健都共創フォーラム



北大阪健康医療都市

健都

主 催 : 吹田市／摂津市
共 催 : 国立研究開発法人国立循環器病研究センター
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
後 援 : 大阪府
事務局 : 三菱UFJリサーチ&コンサルティング／新産業文化創出研究所

産学連携・企業連携等のオープンイノベーション及び
公民連携、地域連携、市民連携等のリビングラボの
「産官学民共創プラットフォーム」の形成に向けた
「試行的研究会」について

2021年7月5日

説 明 : 新産業文化創出研究所 (ICIC)
廣 常 啓 一



北大阪健康医療都市



健康・医療クラスター形成 オープンイノベーション推進

アカデミア（学）・企業（産）中心

共創の実証フィールド
地域課題やニーズ
健康データを提供
シーズ活用の地域事業の構築

仕組み

助言指導
研究成果の還元



健康・医療のまちづくり 「健都モデル」リビングラボ

行政（官）・企業（産）の連携
市民（民）の参画

⇒ ヘルスケア産業の創出
産学連携、企業連携の促進による
イノベーションの創出

⇒健康への意識を変え
新しいライフスタイルを創造
(リテラシー向上から行動変容)

まちづくりとイノベーションの好循環で地域活力の創出
※好循環を生み出す「仕組み」づくり、共創のプラットフォームの形成
両者をつなぎコーディネートする担い手が必要

- 連携実証フィールド
- 市民サポーター
- リビングラボプラットフォームでのテーマ別活動グループ、コミュニティビジネス等
- 自分事化とまちづくりへの参画



健康・医療クラスター形成 オープンイノベーション推進

共創オープンイノベーション機能

①グローバル視点の横展開 / ②ローカル視点の横展開

⇒ ヘルスケア産業の創出
産学連携、企業連携の促進による
イノベーションの創出

① ソーシャル
コミュニケーション活動

理解増進、対話交流、合意形成、
共創人材、地域人材・組織育成
活動支援、地域共創環境の機運醸成
意識変容、行動変容

② 対話・交流・相互の理解増進
合意形成・共創環境形成



③ シ 地域を実証フィールドと
する狭義のリビングラボ

③ 試行的な研究会として
技術や製品の地域での研究、
調査基盤整備と地域導入情報

健康・医療のまちづくり 「健都モデル」リビングラボ

まちづくりリビングラボ機能

(健康・医療+ 防災・防犯+賑わい創出+a)

④ ニーズプル型の
共創リビングラボ

④ 地域課題やニーズの提供、
各活動主体ニーズの提供
健康データ提供や活動協力

⑤ 地域の課題や実情に応じた
情報・研究・技術シーズ・製品提供
地域共創、地域で実証、実装

⇒健康への意識を変え
新しいライフスタイルを創造
(リテラシー向上から行動変容)

- 連携実証フィールド
- 市民サポーター
- リビングラボプラットフォーム
でのテーマ別活動グループ、
コミュニティビジネス等
- 自分事化とまちづくりへの参画

まちづくりとイノベーションの好循環で地域活力の創出
※好循環を生み出す「仕組み」づくり、共創のプラットフォームの形成
両者をつなぎコーディネートする担い手が必要



**国内外のクラスター連携、
リビングラボ連携も視野に入れて**

産官学民の共創プラットフォーム

共創オープンイノベーション機能

①グローバル視点の横展開 / ②ローカル視点の横展開

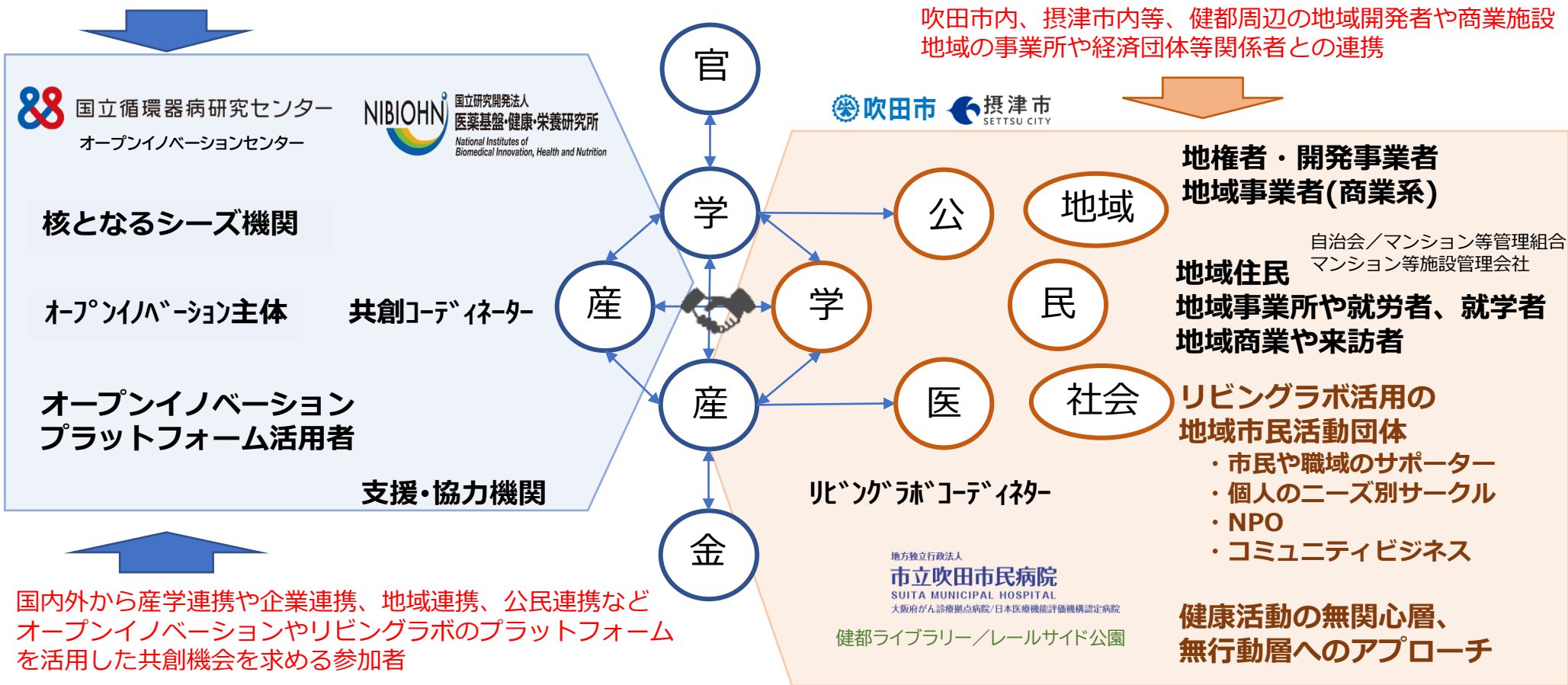
まちづくり地域共創リビングラボ+α機能

(地域課題解決、地域価値創造の地域の自主機能)

産学連携の企画情報発信+
ソーシャルコミュニケーション推進
健康に資する意識変容/行動変容支援

国内外からの多様な優れたナレッジが健都に集積・交流・共創

吹田市内、摂津市内等、健都周辺の地域開発者や商業施設
地域の事業所や経済団体等関係者との連携



国内外から産学連携や企業連携、地域連携、公民連携など
オープンイノベーションやリビングラボのプラットフォーム
を活用した共創機会を求める参加者

産官学民の共創プラットフォーム

共創オープンイノベーション機能

①グローバル視点の横展開 / ②ローカル視点の横展開

- ・製品やサービスの科学技術情報 / リテラシーや健康意識の向上
- ・生活者ニーズや課題解決策の研究開発への共創合意形成
- ・製品やサービスの提供と評価をフィードバック
- ・意識の高いオピニオンへのプロモーションの共創と横展開・国際展開

まちづくり地域共創リビングラボ+α機能

(地域課題解決、地域価値創造の地域の自主機能)

生活者ニーズや課題の提供 / 製品やサービスの評価 / 研究開発のための健康各種データの提供
 製品・サービスの市民共創によるUHC、
 グローバルヘルスへの貢献とシビックプライド醸成

産学官民連携プラットフォーム(狭義) ⇒ 共創オープンイノベーション機能へ

健都外からの企業や大学等、多様な主体の参画が継続的に集積、交流、連携が行われるオープンイノベーションのプラットフォームを目指す・

※大阪府が推進検討する機能

① 核となるシーズ機関
 健都立地の研究機関や医療機関、企業を核とした活動体

④ ④1 共創コーディネーター
 健都の産学連携、企業連携、資金や販路マッチングなどの共創推進やインキュベーション、アクセラレーション、コンサルを実施する機関、土業、また継続的に外部の企業や資金、シーズを誘導集積する機関
④2 ファunding機能
 ・VC、CVC組成、金融機関・マッチング、デューデリ
④3 シンクタンク機能
 新規事業の探索、中長期戦略の立案等・政策提言

- ⑥2 科学コミュニケーション発信主体
- ⑧3 共創合意形成活動主体
- ⑧4 市場ニーズ課題調査主体
- ⑧5 5Tマーケティング主体
- ⑧6 広告プロモーション発信主体
- ⑧7 CSR地域貢献主体

狭義リビングラボを必要とする案件(プロジェクト)や研究機関、企業のコーディネート

⑤ 狭義リビングラボコーディネーター①
 研究機関や企業シーズの仮説検証や調査、実証実験、治験などを地域や市民、患者と結び付ける機関

⑥1 産学連携の企画情報発信+ソーシャルコミュニケーション推進機関
 地域や社会の多様な主体に対してリビングラボや社会実装を求める研究や製品、事業の内容を解りやすく伝えねことと、その理解や判断をできるリテラシー学習(理解推進活動)、対話や合意形成、共創関係構築のための支援。市民やこども向けのセミナーやワークショップ、コンテンツやカリキュラムの企画制作や運営、クリエイターなどとのマッチング。地域共創の不安や不信を除きリビングラボ実施の地域の機運醸成活動としてスタート。

地域・市民連携

⑦ 地域リビングラボコーディネーター②
 地域の住民や事業者のリビングラボ活動の支援機関でプラットフォーム機能や組織化や活動施設のコーディネートや運営、情報提供、広報活動等の中間支援や地域課題やニーズに応じた健都内外のシーズの検証や誘致、ファンドレイジング

治験等
⑧ ⑧1 医療機関
⑧2 患者・家族等

⑧3 地域立地の特定施設(公共施設、公園、病院等)等のステイクホルダー、PPP関係、施設活用団体等

⑨ ⑨1 地権者・開発事業者
⑨2 地域事業者(商業系)
 健都用地の価値化や開発、企業誘致や住宅分譲などの事業者、集客を求める商業施設・店舗等

⑩ エリアマネジメント
 健都と周辺地域の賑わい創出や防災など様々な地域価値創造のため活動の仕掛けや支援、実施運営を行う開発事業者を含む主体。集合住宅などの管理組合支援、公共施設の指定管理業務、各種FM等も含む。

⑪ ⑪1 地域住民
⑪2 地域事業所と就労者等

地域共創・市民協働

⑫1 リビングラボ地域プラットフォーム
 様々なテーマの複数主体

⑫2 リビングラボ起点地域市民活動団体
 地域やテーマ別に地域住民や事業者等が地域課題解決や価値創造の為に活動する多様な主体。健都と周辺地域、吹田市、摂津市の広域的な活動主体、サークル、NPO・社団・コミュニティ・ジグサ等

② オープンイノベーション主体
 自らが自社シーズや共創を事業としてオープンイノベーション実施する機関

③ オープンイノベーションプラットフォーム活用者
 ③1 学術研究機関 / ③2 企業スタートアップ
 様々な業種や職種の組織や個人

健都内外の共創機会への参加者
 健都の機能や施設を利用することを求めて参画する大学、企業やベンチャー、投資家など。

- ③1 健康医療シーズ事業化系
- ③2 上記支援関連事業系
- ③3 リビングラボ基盤技術事業系

社会的価値、地域的価値を産み出したい企業や研究機関との地域マッチングを推進する中間支援機関

(1)産学連携・企業連携関連テーマ（複数の研究や技術などシーズ共創、事業化共創テーマ）

<内 容>

健都に立地する国立循環器病研究センターをはじめとした研究機関との産学連携等のオープンイノベーションに向けた研究会。特に、健都を核に吹田市、摂津市全域の地域実証フィールド活用を見据え、健康寿命延伸に関わる様々なテーマを研究会で議論し、企業の皆様の希望等に応じて実施テーマやプロジェクトを検討していくものです。

<対象者>

- 産学連携・企業連携での共同研究等により、実証フィールド活用を見据えた以下のような取組をお考えの企業、研究機関等（健康医療関連の技術や製品、サービスなどの研究や開発、評価、事業化）
- （健康医療関連の研究や検査、実験等に活用する技術や製品、サービスの開発または導入）



(3)ソーシャルコミュニケーション・行動変容（健都内外への情報発信、地域への理解増進や対話、意識や行動変容活動含む）

<内 容>

健康医療に関わる社会や地域との対話、理解増進、合意形成、意識変容、行動変容、交流や共創を実現するためのソーシャルコミュニケーションを検討する研究機関や学会、企業や業界団体、クラスターなどと、コミュニケーションや学習、クリエイティブ、情報発信などの技術や事業を支援する機関や事業者などとの共創研究会

<対象者>のメンバーに加え

- 健康医療に関わる研究や開発を行う学術研究機関や学会、企業や業界団体、関連クラスター等
- コミュニケーションや学習、クリエイティブ、情報発信などの技術や事業を支援する機関や事業者
- 上記を実装する施設（科学館、図書館、教育機関、企業ミュージアム、ショールーム等）や地域クラスター
- 上記を実装するイベントやメディア（2025EXPOなども想定）



(2)リビングラボ形成、活用（複数テーマの地域でのフィールド提供や参加協力、活動推進）

<内 容>

地域共創の仕組み（リビングラボ）に必要なとされる機能や共創手法、その活用方法等について、地域の関係者の皆様、地域共創の基盤（データヘルス等のヘルスケア分野におけるスマートシティ基盤等）形成に関わる技術や運営ノウハウをお持ちの皆様、実証フィールドを活用した研究開発や評価等をお考えの皆様、そして、リビングラボに関わる専門家の皆様などと議論や検討をしていくものです。

<対象者>

- 地域の関係者
 - ・対象地域で住宅やオフィス、商業施設等を開発、管理または運営する事業者、対象地域の医療、福祉関連機関、教育機関
 - ・対象地域で健康医療関連の課題解決や普及啓発事業などに取り組む団体等
- リビングラボの基盤形成に関わる技術、ノウハウをお持ちの企業等
 - ・リビングラボの基盤となるスマートシティ技術や連携ネットワーク、活用デバイスなどに関わる企業等
 - ・地域での実証機能を支える検査や評価、健診などに関わる技術やサービスの開発、導入をお考えの企業等
 - ・リビングラボの形成や運営に関わる企業等
- リビングラボを活用した研究開発（（1）の共同研究含）や評価、実証をお考えの企業等
- その他、地域での市民対話や交流、共創を希望する健康、医療関連の企業や研究機関

研究会の3つの大分類と試行的な複数テーマの試行的研究会（WG）を同時スタート



④オープンイノベーション共創コーディネート機能

⑤狭義リビングラボコーディネーター①

アドバイザーボード

試行的研究会テーマ1
「産学から健康医療系の共創テーマ募集」

プラットフォームのシーズや活用企業だけでなくコーディネート機能を担う多様な主体や健都以外の国内外クラスターや支援機能とのネットワーク構築

- ①核となるシーズ機関
- ③OIJプラットフォームと活用者(産学)
- ⑧医療機関 患者・家族等

STEP 1
交流会
サロン
「Café」

STEP 2
セミナー
説明会
公開ピッチ

STEP 3
試行的研究会活動
・シーズ発表 / 企業取組発表
・研究連携協議 / チームビルド / 提供バネット
・リビングラボ活用計画の検討
・欠落共創パートナー、地域パートナー参画誘導

STEP 4
ワーキング・分科会(複数)
・試験製品サービスの整理
・センシング・研究調査手法
・社会実験(治験、データ取得)計画
・実施課題検討・規制許認可・予算等

STEP 5
実証実験
・協力者への定期情報
・協力者への介入
・協力者の組織化
・協力団体との連携

⑥ソーシャルコミュニケーション専門技術・施設・イベント・カリキュラム

セミナー
説明会
公開ピッチ

研究会テーマ1と2のコミュニケーション手法や施設の検討

理解増進事業
関心層の可視化

協力者の集客
説明・合意形成

対話
情報収集

- ③実証フィールド基盤技術
- ⑧地域立地施設 活用団体等
- ⑨地権者・開発事業者 地域事業者 (商業系)

STEP 1
交流会
サロン
「Café」

STEP 2
セミナー
説明会
公開ピッチ

STEP 3
試行的研究会活動
・地域特性・課題・ニーズ発表
・地域リビングラボ・基盤インフラ
・地域側主体の取組・協力可能機能発表 / 研究連携協議 / チームビルド / 協力バネット
・欠落共創パートナー、サービス・技術パートナー参画誘導

STEP 4
ワーキング・分科会(複数)
・試験製品サービスの導入可能性
・研究調査手法と施設や設備へ機能設置
・実証実験(治験、データ取得)計画協力体制
・実施課題検討・規制許認可・予算等

STEP 5
実証実験
・協力者への定期情報
・協力者のパートナー誘導
・協力者の自主組織化
・パートナー機能確立

試行的研究会テーマ2
「健都リビングラボ関連」

◆地域関係者以外からの専門的機能を持つ主体の参加も拡げる
・先行する実施地域や主体からの情報
・健都機能の強化とプレイヤーの拡大

⑤狭義リビングラボコーディネーター①

⑦地域リビングラボコーディネーター②

プラットフォーム化推進と
リビングラボから産まれる活動団体連携

対象者と仮説
リビングラボ

研究会の3つの大分類と試行的な複数テーマの試行的研究会（WG）を同時スタート



④オープンイノベーション共創コーディネート機能 ⑤狭義リビングラボコーディネーター①

アドバイザーボード

試行的研究会テーマ1
「産学から健康医療系の
共創テーマ募集」

プラットフォームのシーズや活用企業だけでなくコーディネート機能を担う
多様な主体や健都以外の国内外クラスターや支援機能とのネットワーク構築

- ①核となるシーズ機関
- ③OIJプラットフォームと活用者(産学)
- ⑧医療機関 患者・家族等

STEP 1
交流会
サロン
「Café」

STEP 2
セミナー
説明会
公開ピッチ

STEP 3
試行的研究会活動
・シーズ発表 / 企業取組発表
・研究連携協議 / チームビルド / 提供バネット
・リビングラボ活用計画の検討
・欠落共創パートナー、地域パートナー参画誘導

STEP 4
ワーキング・分科会(複数)
・試験製品サービスの整理
・センシング・研究調査手法
・社会実験(治験、データ取得)計画
・実施課題検討・規制許認可・予算等

STEP 5
実証実験
・協力者への定期情報
・協力者への介入
・協力者の組織化
・協力団体との連携

⑥ソーシャルコミュニケーション専門技術
・施設・イベント・カリキュラム

セミナー
説明会
公開ピッチ

研究会テーマ1と2
のコミュニケーション手法や
施設の検討

理解増進事業
関心層の可視化

協力者の集客
説明・合意形成

対話
情報収集

③実証フィールド基盤技術

⑧地域立地施設
活用団体等

⑨地権者・
開発事業者
地域事業者
(商業系)

交流会
サロン
情報収集や検討、
テーマや技術提案
のための参加

STEP 2
セミナー
説明会
公開ピッチ

試行的研究会活動
・地域特性・課題・ニーズ発表
・地域リビングラボ・基盤インフラ
・地域関係者以外からの専門的機能を持つ主体の参加

STEP 4
ワーキング・分科会(複数)
・試験製品サービスの導入可能性
・研究調査手法と施設・機能設置
・社会実験(治験)計画
・実施課題検討

STEP 5
実証実験
・協力者への定期情報
・協力者のパートナー誘導
・協力者の自主組織化
・プラットフォーム機能確立

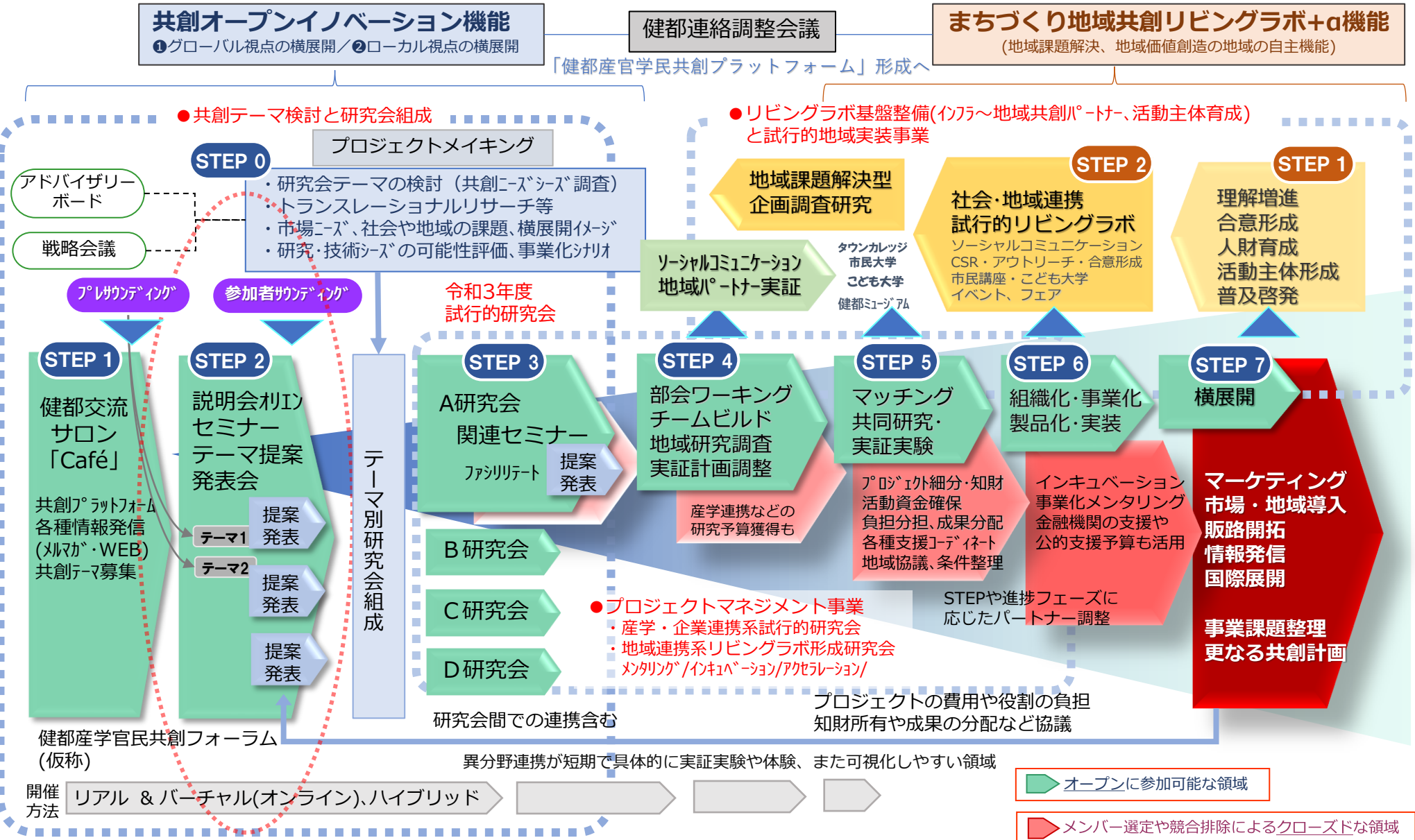
様々な共創目的や機能

- ⑤狭義
 - ・研究開発段階での共創
 - ・実証の段階での共創
 - ・実装の段階での共創
- 科学的根拠や評価や検証のための共創
- ・検査や測定装置や技術や手段としての共創
- ・製品化、事業化の為の材料や技術、人財としての共創
- ・ソーシャルコミュニケーションのための共創
- ・実証フィールド基盤整備や活用としての共創
- ・実証フィールド協力主体との共創

対象者と仮説
リビングラボ

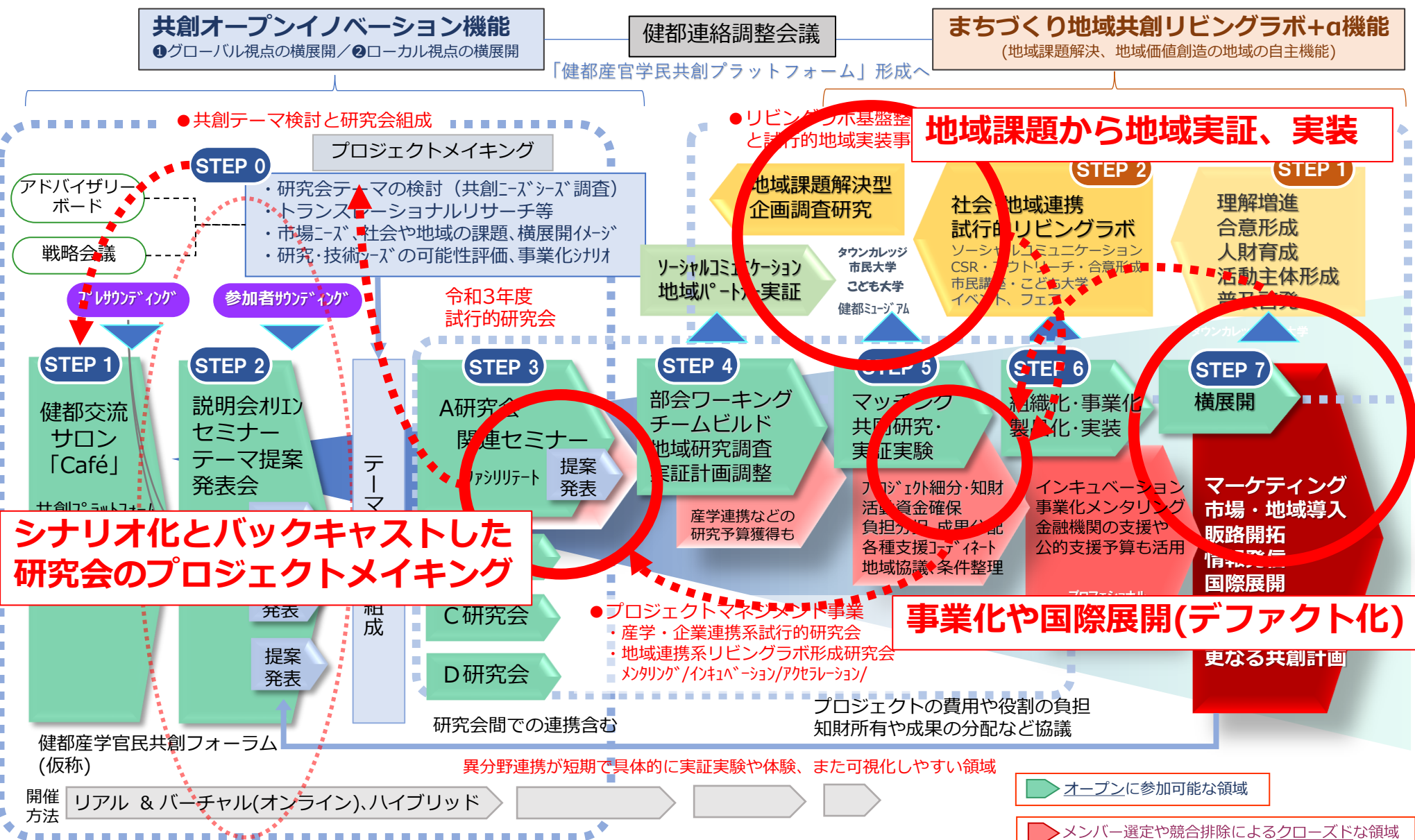


オープンイノベーションの研究会による連携・共創と事業化へのプロセス



※1 ここで言うトランスレーショナルリサーチ (Translational Research) とは、国内・海外の大学・研究機関、ベンチャー、研究機関などにおける基礎研究から 派生してくる有望な新技術や新素材等を発掘して、市場イメージと事業化までのシナリオを創り、バックキャストの中でのプレイヤーや達成事項をデザインし、試験やトライアル事業等を行いながら、付加価値を高めて事業化へつなげていくことを意味します。

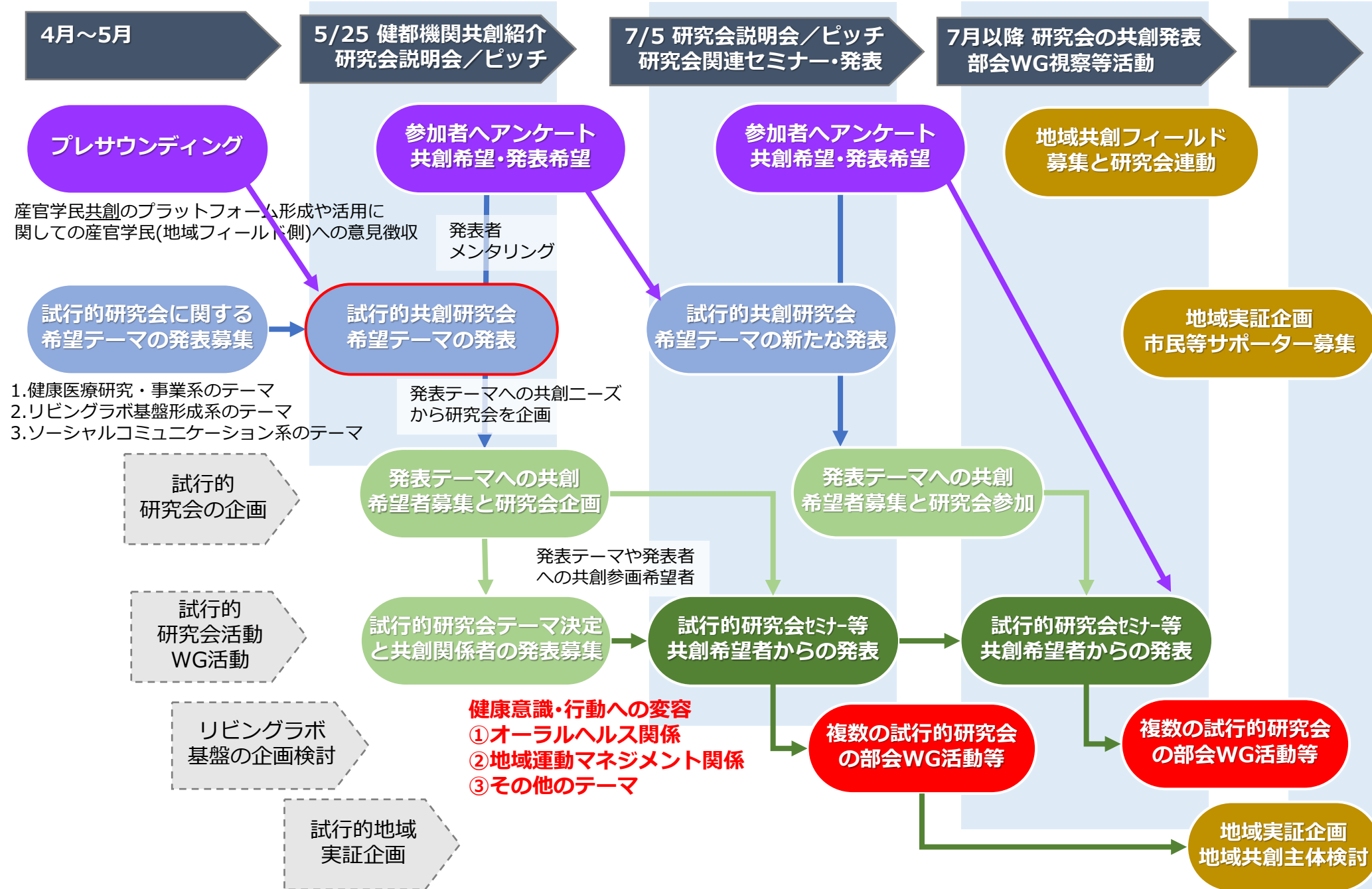
研究会やプロジェクトを社会実装や市場導入に誘導する方法にも、ノウハウが必要となる。上記のようにオープンとクローズドの研究会活動を進捗やメンバーの能力などを見極めながら個別メンタリングやファシリテートしていく必要がある。



※1 ここで言うトランスレーショナルリサーチ (Translational Research) とは、国内・海外の大学・研究機関、ベンチャー、研究機関などにおける基礎研究から 派生してくる有望な新技術や新素材等を発掘して、市場イメージと事業化までのシナリオを創り、バックキャストの中でのプレイヤーや達成事項をデザインし、試験やトライアル事業等を行いながら、付加価値を高めて事業化へつなげていくことを意味します。

研究会やプロジェクトを社会実装や市場導入に誘導する方法にも、ノウハウが必要となる。上記のようにオープンとクローズドの研究会活動を進捗やメンバーの能力などを見極めながら個別メンタリングやファシリテートしていく必要がある。

サウンディング～希望テーマ発表、試行的研究会の企画と活動の流れ



- 研究会・部会・プロジェクトの幅広いコーディネート、関係者メンタリング
- 産学連携や企業連携などのビジネスマッチング
- 地域連携や実証フィールド、実証協力主体とのマッチング、実証の支援
- 吹田市、摂津市、また健都の様々なフィールドや活動主体の形成や育成、活用
- テーマに応じた市民サポーターの募集と連携コーディネート
- 地域や市民に対するソーシャルコミュニケーション活動の技術や機会の提供
研究者や専門家、実施・運営機関、表現・教育関係者などとの連携
- 健都で進みつつある様々なプロジェクトや機能の活用、プロジェクト化支援
- 様々な公的支援(国や自治体等)の補助金や委託業務、プロジェクトや支援機能の活用、コンソーシアム等の組成や公募の支援
- 民間ファンドや融資の活用、制度の設計、ほか

JST 共創の場形成支援 -知と人材が集積するイノベーション・エコシステム-

令和3年度予算額(案) 13,734百万円
 (前年度予算額 13,800百万円)
 ※運営費交付金の推計額
 令和2年度第3次補正予算額(案) 900百万円



背景・課題

- 将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを産学官の共創(産学官共創)により構築することが必要。
- 今後、「ウィズ・コロナ」、「ポスト・コロナ」の社会像を世界中が模索する中、**産学官民で将来ビジョンを策定・共有し、その実現に向かって取り組むことが必要。**
- 経済が厳しい状況にある中、**国が重点的に支援し、大学等を中核とした組織対組織の本格的な共同研究開発の推進と環境づくりを進めることが重要。**

【統合イノベーション戦略2020(令和2年7月17日閣議決定)】
 ・新型コロナウイルス感染症の影響による、産学連携の研究開発投資の急激な減速を防ぎ、悪循環を回避していくため、コロナショック後の社会変革や社会課題の解決に繋がる優れた新事業を目指す産学官の共同研究開発やオープンイノベーション促進及び地方大学の機能強化による恒常的なイノベーション・エコシステム構築のための施策を推進する。

事業概要

- **新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、国連の持続可能な開発目標(SDGs)にもとづく未来のあるべき社会像(ビジョン)を描き、その達成に向けて、大学等を中心とした産学官共創により、ビジョン実現に向けた「新たな経済的・社会的価値を創造するバックキャスト型研究開発」とそれを支える「産学共創システムの構築・持続的運営」をパッケージで推進する拠点の形成を支援。**



- (3つのポイント)
- 「人が変わる」
SDGs×ウィズ/ポストコロナに係るビジョンを共有
 - 「大学が変わる」
持続的な産学共創システムの整備・運営
 - 「社会が変わる」
科学技術イノベーションによる社会システムの変革

新型コロナウイルスの影響を踏まえ、SDGsに基づく未来のあるべき社会像を探求し、参画する組織のトップ層までビジョンを共有。「ウィズ・コロナ」、「ポスト・コロナ」の国の成長と地方活性化、持続可能な社会の実現を目指す。

産学共創拠点を自立的に運営するためのシステム(産学共創システム)を構築。プロジェクト終了後も、代表機関が中心となり持続的に運営。

ビジョンからバックキャストし、研究開発目標と課題を設定。組織内外の様々なリソースを統合することで最適な体制を構築し、イノベーション創出に向けた研究開発を実施。ビジョン実現に必要な社会実装、社会システム変革を目指す。



育成型・本格型合わせて約34億円



共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)	育成型	本格型
	<p>① 目指すビジョンの構築や研究テーマの組成、研究推進体制整備等を実施。進捗管理、ネットワーキングや発展シナリオ等のハズオン支援及び本格型への移行審査を実施。</p>	<p>① 知識集約型社会を牽引する大学等の強みを活かした、「ウィズ・コロナ」、「ポスト・コロナ」時代の社会ビジョン達成を目指す産学官共創拠点(共創分野)、② 国の重点戦略(政策重点分野)を踏まえた拠点、③ 大学等と地域のパートナーシップによる拠点(地域共創分野)について、価値創造のバックキャスト研究開発と持続的なシステム構築を推進。</p>
OPERA (継続のみ)	民間企業とのマッチングファンドにより、複数企業からなるコンソーシアム型連携による非競争領域の大規模共同研究と博士学生等の人材育成、大学の産学連携システム改革等を一体的に推進。	
COI (継続のみ)	10年後の目指すべき日本の社会像を見据えたビジョン主導によるバックキャスト型のチャレンジング・ハイリスクな研究開発を、大学や企業等の関係者が一貫した屋根の下で一体となって推進。	

支援規模: 3千万円程度/年 支援期間: 2年度程度 支援件数: 22拠点程度 (新規12拠点程度)
支援規模: ~4億円程度/年 支援期間: 最長10年度 支援件数: 10拠点程度 (新規4拠点程度)
支援規模: 共創PF型・育成型1.7億円/年 OI機構連携型 1億円/年 支援期間: 原則5年度(育成型6年度)
支援規模: 1-10億円/年度 支援期間: 原則9年度

プラットフォーム型産学官連携の一体的推進

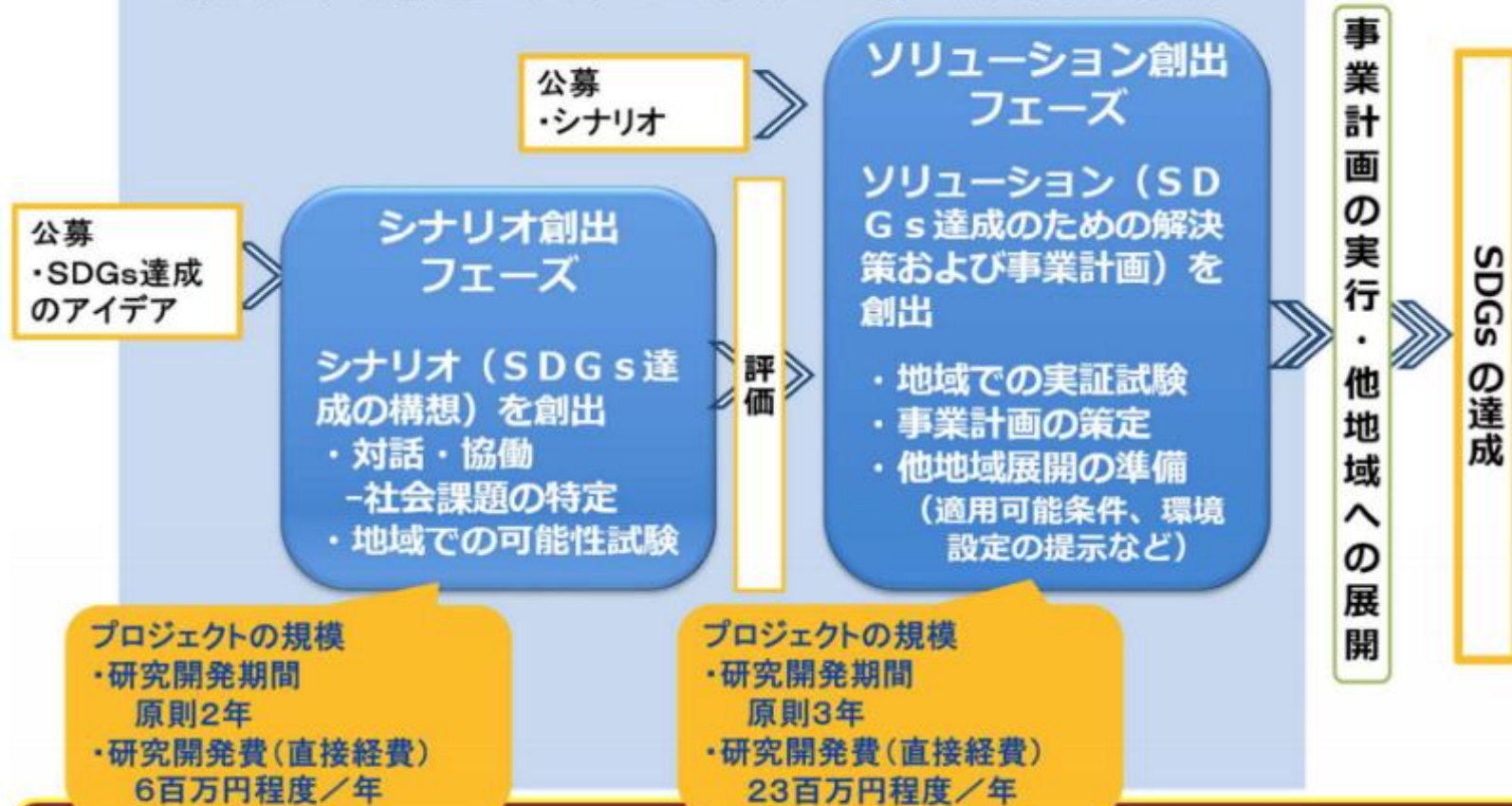
イノベーション・エコシステムの形成

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (SOLVE for SDGs)

概要

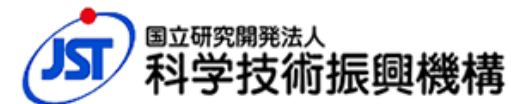
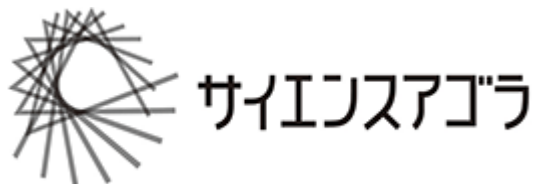
SDGsの達成に向けて目指すべき姿（ビジョン）を描き、国内の地域における社会課題を特定し、その解決策を実証する。さらに、実証された解決策を他地域に展開するための事業計画を策定する。

研究者と社会課題に取り組む当事者が一緒に研究開発を実施



ステークホルダーとの共創

(自然科学・人文学・社会科学系研究者、NPO、自治体、住民、企業、金融機関含む)



サイエンスアゴラとは、あらゆる人に開かれた科学と社会をつなぐ広場の総称です。サイエンスアゴラは、異なる分野・セクター・年代・国籍を超えた関係者をつなぎ、さまざまな人たちが各地で主体的に推進する活動の広場です。この広場に集まる人たちが多様な価値観を認め合いながら、対話・協働を通じて、これからの「社会とともにある科学」と「科学とともにある社会」の実現を目指します。

サイエンスアゴラに集う活動の要件は以下の5つです。

- (1) 社会とともにあること、社会のためにあること
- (2) 科学技術に関すること
- (3) 自発的であること
- (4) 多様な人とのつながりを大切にすること
- (5) 公開できること



11/7(金)~11/9(日)
10:00~17:00 入場無料

会場: 自家・宮崎県民会館
 宮崎県宮崎市中野原1-1-1
 宮崎県立宮崎大学附属会館
 〒880-0001 宮崎県宮崎市

お問い合わせ: 099-271-1111

サイエンスアゴラ2014
 サイエンスアゴラ2014は、2014年の科学技術振興機構のトップ
 科学賞として選定された宮崎県立宮崎大学附属会館で、初めて
 開催された。宮崎県立宮崎大学附属会館は、宮崎県立宮崎大学
 附属会館として、2014年11月7日(金)~9日(日)に開催された。

サイエンスアゴラ in 京都 2019

地方
開催サイエンスアゴラ連携企画[※]として開催。※サイエンスアゴラのビジョン、テーマ、トピックを共有し、JSTとともに実施する、共創活動の振興を図るフォーラム

サイエンスアゴラ in 京都

京都

京都大学^超SDGsシンポジウム

資源・エネルギーと持続可能性

2019年6月27日 京都大学時計台百周年記念館

主催 京都大学
共催 関西SDGsプラットフォーム
国立研究開発法人科学技術振興機構

10:10-12:30 パネルセッション

資源・エネルギー問題を起点に、パートナーシップでSDGsに挑む

資源・エネルギー問題に関する国や地域、企業における取り組みの先端を知ると同時に、SDGs 達成やその先を見据えた議論を行い、産官学連携に向けた視座・ヒントを得たい。

登壇
予定者加賀安動イニシアティブ
/ WWF ジャパン
末吉竹二郎代表京都府
門川大作市長株式会社リコー
山下良則社長環境省
環境再生・資源循環部
山本昌室長近畿経済産業局
通商部
高瀬幸子企画官科学技術振興機構
(JST)
真先正人理事京都大学
地球環境学室
鎌富徹教授京都大学
環境科学センター
酒井伸一教授

コーディネーター



討論する登壇者

13:00-16:15 JST 地域産官学社会連携分科会

「わたしのまちのスマートモビリティ 2030」

13:30-14:30 国際ワークショップ

「レジリエントな低炭素社会の構想」

18:00- 超 SDGs ネットワーキングディナー

13:00-14:30 企業・団体向けセミナー「SDGs入門」

16:30-17:45 SDGs に関するもやもや感を
少しでも解消！「超 SDGs 道場」



科学技術コミュニケーションや
ソーシャルコミュニケーションの
技術を持つクリエイター、ジャーナリスト
サイエンスコミュニケーター



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025

産学連携
カリキュラム

産学連携
カリキュラム

吹田摂津
おうち教室

地域の大学
カリキュラム

地域事業者
商店等カリキュラム

地域NPO
カリキュラム

認定こども園
連携カリキュラム

異業種連携
カリキュラム



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えようための17の目標

地域住民が家族や
親せきを呼び込む


近所のご家族
や患者、患者の家族

地域の住民、事業所、教育機関
市民団体、患者や家族等の参加

子供のことを考える地域側の
住民や関係機関で子供のため
の多様な事業、カリキュラム
と受け皿を検討

地域の子供達が、地域外
の子供を招き入れるカリ
キュラムを開発

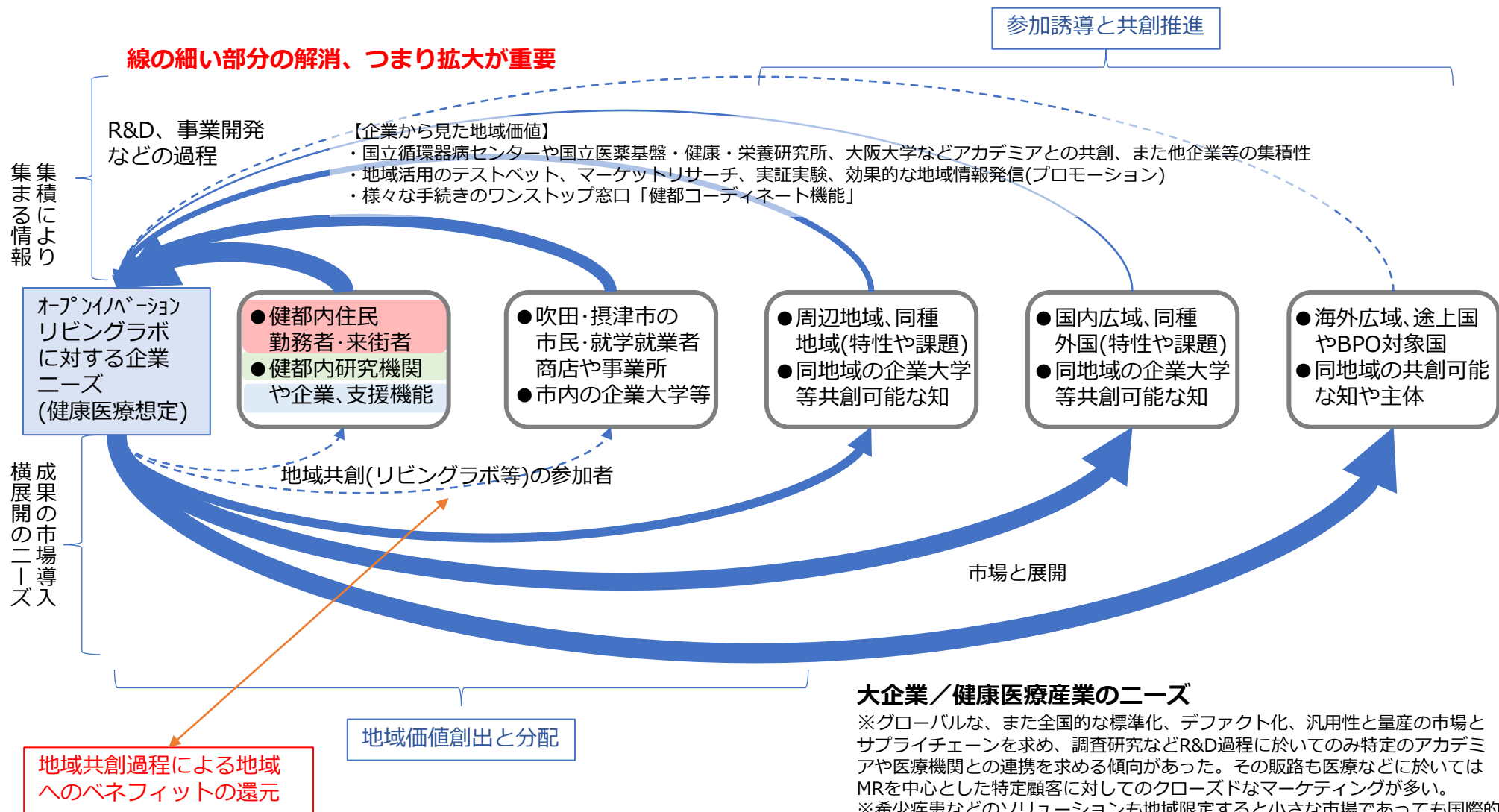
健都外の参加研究機関
の関連施設や体験への
移動プログラム




健都内外の企業等のニーズ

地域特性の高いR&D情報は、健康や医療関係の量産化する製品の市場展開には不向きである。リビングラボなど地域連携(共創)の地域ニーズと企業等の規模の大きな市場(製品やサービスの提供)展開ニーズとのギャップを解消する必要がある。

- ①グローバルな視点でのオープンイノベーションとそのためリビングラボ・ネットワーク機能
- ②ローカルな視点でのオープンイノベーションと健都の健康まちづくりのエリアマネジメントやコミュニティビジネスの2つの視点の検証と試行的な取組みを考える。



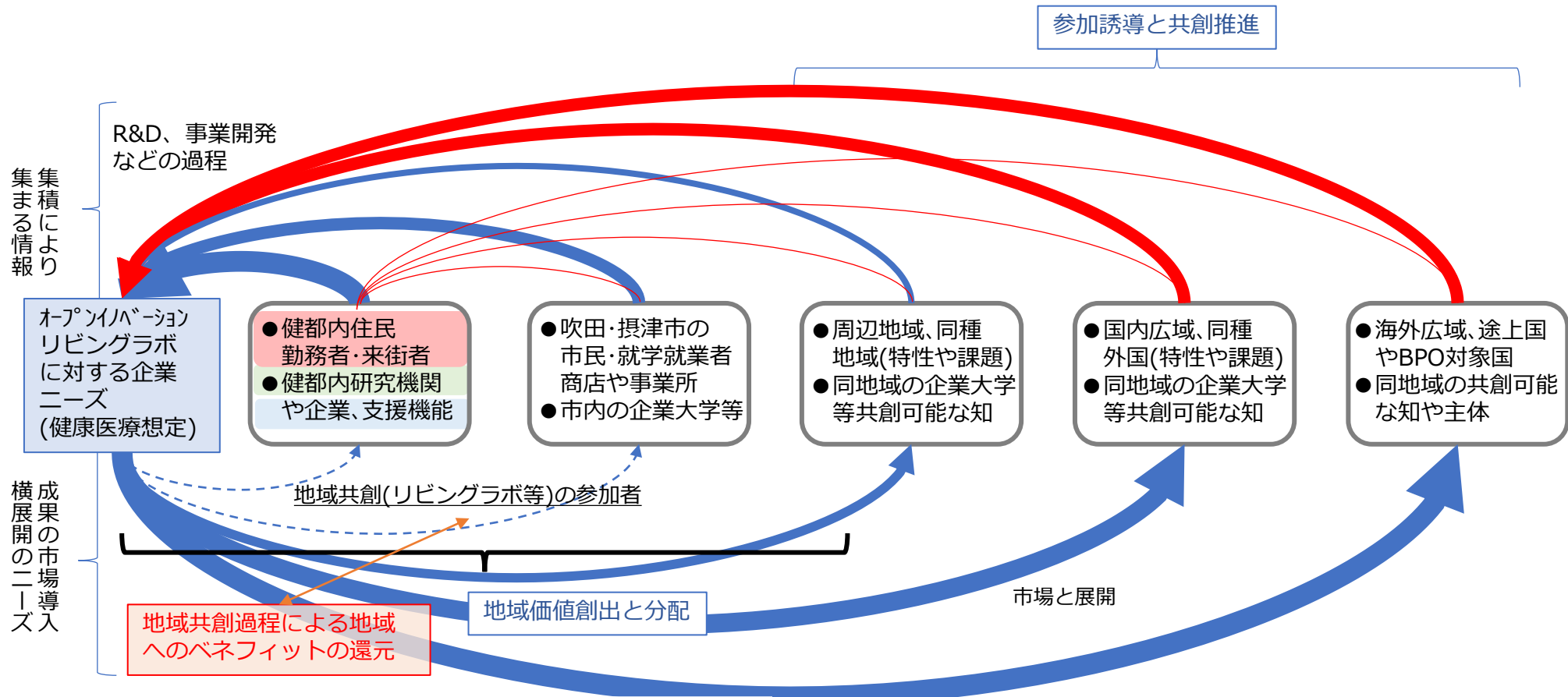
想定される企業とのかかわり方と企業ニーズの矛盾の解消

健都内外の企業等のニーズ

地域特性の高いR&D情報は、健康や医療関係の量産化する製品の市場展開には不向きである。リビングラボなど地域連携(共創)の地域ニーズと企業等の規模の大きな市場(製品やサービスの提供)展開ニーズとのギャップを解消する必要がある。

①グローバルな視点でのオープンイノベーションとそのためのリビングラボ・ネットワーク機能

②ローカルな視点でのオープンイノベーションと健都の健康まちづくりのエリアマネジメントやコミュニティビジネスの2つの視点の検証と試行的な取組みを考える。



- 【市民】
- ・地域はR&D過程に参加することでイノベティブな技術やサービスをいち早く、安価、または無料で受けられ、QOLが向上する
 - ・社会や地域との対話(ソーシャルコミュニケーション※)実証拠点として健康スキル等が向上する。子供などの健康教育環境が整う。
 - ・国内外の社会課題解決の共創者として加わることが可能。エコシステムの構成者として組み入れることで有形無形のベネフィットを得る。
 - ・テーマな活動内容に応じたサークル活動、市民団体、コミュニティなどなどを支援
- 【地域企業】 R&D過程の様々なオーダーメイド技術の受託に加わることが可能(川崎モデル)

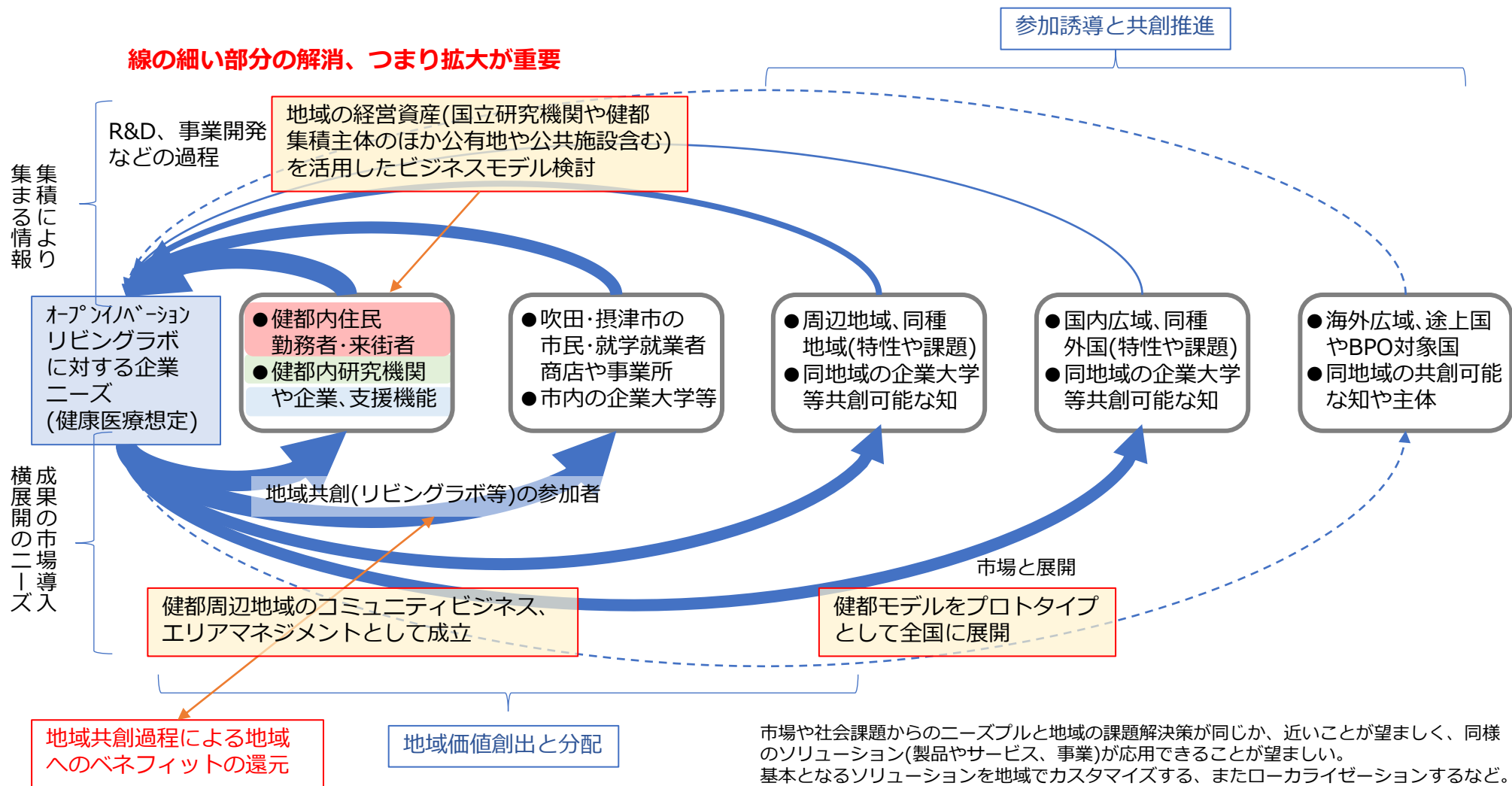
市場や社会課題からのニーズプルと地域の課題解決策が同じか、近いことが望ましく、同様のソリューション(製品やサービス、事業)が応用できることも望ましい。基本となるソリューションを地域ごとにカスタマイズする、またローカライゼーションするなど。検討段階では、社会課題と地域課題の共通性、つまり健都で共創したソリューションが横展開できるような方策や、健都と各地のプラットフォーム、または国内外の課題や市場とのネットワークを構築当初より含めた検討とする。

健都内外の企業等のニーズ

地域特性の高いR&D情報は、健康や医療関係の量産化する製品の市場展開には不向きである。リビングラボなど地域連携(共創)の地域ニーズと企業等の規模の大きな市場(製品やサービスの提供)展開ニーズとのギャップを解消する必要がある。

①グローバルな視点でのオープンイノベーションとそのためのリビングラボ・ネットワーク機能

②ローカルな視点でのオープンイノベーションと健都の健康まちづくりのエリアマネジメントやコミュニティビジネスの2つの視点の検証と試行的な取組みを考える。



市場や社会課題からのニーズと地域の課題解決策が同じか、近いことが望ましく、同様のソリューション(製品やサービス、事業)が応用できることが望ましい。基本となるソリューションを地域でカスタマイズする、またローカライゼーションするなど。検討段階では、社会課題と地域課題の共通性、つまり健都で共創したソリューションが横展開できるかも当初より含めた検討とする。



北大阪健康医療都市
健都



北大阪健康医療都市

健都

(3) 共創テーマ（研究・技術シーズ・実証フィールド基盤等）の発表
(前半:約13:25～14:10頃)
途中休憩 5分程度
(後半:約14:15～15:10頃)

●ファシリテータ : 新産業文化創出研究所 所長 廣常啓一

第2回共創フォーラム発表内容

●大阪産業大学工学部・教授・工学博士（株式会社オーエスユー代表取締役） 山田 修 氏
「セラミック水を活用したオーラルヘルス事業の共創と地域実証(仮題)」

【発表要旨】

大阪産業大学発ベンチャーである株式会社オーエスユー（大学の頭文字）では、長年にわたり天然には存在しないセラミックスの人工合成を行ってきた。このセラミックスを投入した水（以後、セラミック水）は優れた殺菌能を示し、経口投与の安全性もGLP基準を満たしている。この始まりは、開発途上国での汚染水を殺菌して、安全な飲料水提供を目指したものである。このためには、「殺菌性を有する飲料水」という今までに無い概念に基づいた開発であった。この成功により、阪大歯学部との共同研究において、虫歯菌や歯周病菌にも有効性を示し、プラーク付着抑制もできたため、無意識に飲料水として飲むことで同時にオーラルケアが行えるようになった。今後、市民がこれを飲むことで、健康維持や増進が図れるかといった実証を実施していきたい。

●大日本印刷株式会社 包装事業部 イノベティブ・パッケージングセンター
ビジネスデザイン本部 市場開発部 第2グループ 今井 涼介 氏
「在宅患者の服薬状況を可視化する取り組み」

【発表要旨】

大日本印刷株式会社包装事業部では印刷技術を活用したDNPモニタリングパッケージ「Your Manager」を用いて服薬状況の可視化に取り組んできた。

現在この技術を在宅医療で良く使用されるお薬カレンダーに応用し、IoT化したお薬カレンダー「服薬管理カレンダー」を開発している。

今後、薬局/薬剤師や家族などが遠隔で服薬状況をモニタリングし、必要に応じたフォローを行うことで服薬忘れが減るような行動変容を実現する実証を行っていきたいと考える。

●大阪成蹊大学 経営学部 教授 植田 真司 氏

「学校等で、こどもに対する気づきの健康教育が、親(家族)の健康への行動変容に結び付くことの実証研究」

【発表要旨】

運動が健康において重要であることは、多くの人が知っていることである。しかし、十分な運動を実施している人は少ない。スポーツ庁の「スポーツの実施状況等に関する世論調査」によると、運動・スポーツの阻害要因として、「仕事や家事が忙しいから」「面倒くさいから」「年をとったから」などがあげられているが、行動変容には、運動・スポーツをするメリットや動機が重要と考える。今回は、こどもに対し気づきの健康教育を行い、こどもの主体的・自発的な行動により、親や家族を運動などの健康機会にアクセスしてもらい、行動変容に結び付ける機会となるパートナーの製品やサービス、施設を提供し、その選択理由や今後も継続できるのかを含め実証する。

●日本笑いヨガ協会 代表 高田 佳子 氏

「健康意識を向上させる『笑い』のまちづくり」

【発表要旨】

笑いと運動を組み合わせた「笑トレ」は、心身にポジティブな変化をもたらし、運動習慣を身につけられるプログラムです。筋力アップ・心肺機能向上・可動域拡大といった運動も、笑いのストレス軽減効果を活用することで、楽に運動効果が得られます。変化が実感でき、記録ツールの活用で行動変容が早く、運動の継続が容易です。たいへんシンプルで、グループエクササイズ・セルフケア・オンラインの全てで実践できます。「美味しく口から食べる・歩く・ごきげんでいる」の3つをテーマとし、過疎地での実践の事例と「お口の笑トレ」を紹介します。住民が、自律的に健康知識と実践スキルを高めていける可能性を、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

●メンテナンス ストレッチ アソシエーション 城戸 逸代 氏**「健康づくりは 私の大切な 仕事です」**（吹田市の健康づくり都市宣言より引用）**【発表要旨】**

結婚を機に吹田市民歴43年、吹田で子を育て 吹田まつりをはじめ吹田市のイベント等に参加させていただき、多世代交流のコミュニティ、緑豊かな環境、ふるさと吹田が大好きです。この度、産官学民の民として発表の機会を頂けたことを感謝いたします。FBで健都共創フォーラムを知りましたが、平成26年の経産省のヘルスケアビジネス推進フォーラムで、健都のまちづくり取組の事例を、また平成27年2月の関西大学のシンポジウムでオープンイノベーションを知り、今後の展望を待ち望んでおりました。

私たちは科学的根拠を持たないものの病後からの回復と自分で自分をメンテナンスし、動ける身体、笑顔の連鎖と幸福感、健康的な毎日を過ごす為のヘルスケアや筋力チェックのストレッチ（メンテナンスストレッチ）を地元の中高年で継続的に行ってきました。アクティブシニアに変貌したグループとして科学的根拠や行動変容などの実証フィールド側グループとして共創に寄与したいと思えます。

●株式会社ライフィノベーション 常務取締役 杉山 純一 氏**「patona吹田健都のフィールドとしての可能性」****【発表要旨】**

2020年2月、パナソニックホームズ株式会社の整備により『高齢者向けウェルネス住宅』の先導的モデル事業となるpatona吹田健都が開業した。ウェルネス機能や地域包括ケアシステム機能を備え、また、当社がマスターリースする低層階には、ドラッグストアをはじめ、医療、運動、保育、教育といった用途で構成されるテナントゾーンを設け、多世代交流の創出による健康維持・増進に取り組んでいる。テナントゾーンには、施設の種類に応じて様々な属性の利用者が訪れる特徴がある。今回の発表では、各施設の機能や利用者属性等を説明させて頂き、フィールドとしての利活用の可能性を皆さんと考えていきたい。

●グローバルビレッジ津雲台まちづくり協議会 代表幹事**共和メディカル株式会社 代表取締役 杉浦 万正 氏****「グローバルビレッジ津雲台の取り組み紹介と吹田健都との協働・交流の可能性」****【発表要旨】**

今年1月、グローバルビレッジ津雲台が開業しました。全体の約半分が大阪大学施設（留学生や教職員の宿舎）。残り半分が民間施設として、ファミリー賃貸、サービス付き高齢者住宅、シェアハウス等の多世代共生の居住スペースや、クリニックモール（整形、内科、透析／泌尿器外来、薬局）、食堂、カフェ、動物病院、学習塾、フィットネスなど多様な交流を生み出すテナントが集まっています。さらに6月、街のコンセプトである「おもろい学び場（あそびば）」を実現すべく、大阪大学人間科学科の協力の下「GVまちづくり協議会」を発足しました。本日は、グローバルビレッジ津雲台での取組をご紹介しますと共に、同じ吹田市で地域住民のために一緒に出来る事を共に模索できればと考えています。

参考⇒ <http://patona-suita-tsukumodai.jp/>

●株式会社テルミーソリューションズ 代表取締役社長 山本 光平 氏**「健康無関心層の行動変容を促す毛髪分析」****【発表要旨】**

弊社は今年創業91年目となる美容業です。お客様の美のお手伝いをさせて頂く中で「美と健康」は不可分であることを強く意識し、毛髪分析によるヘルスケアの研究にも取り組んで来ました。最近では毛髪中の糖化タンパクを正確に測定する技術開発を行い、糖尿病患者と健常者との毛髪中糖化タンパク濃度比較では $P < 0.005$ と有為な結果を得ました。美容院にて非侵襲で糖化度を測る事により、定期的に来店され一定時間滞在される顧客とのコミュニケーションを通じて健康への「気づきと継続」を提供できる可能性があります。全国に美容院は25万軒以上存在し、その数はコンビニの約4.5倍もあります。新しいリビングラボの可能性についてご提案させていただきます。

https://www.osaka.cci.or.jp/Chousa_Kenkyuu_Iken/press/210212aibj.pdf

- 同志社大学ソーシャルマーケティング研究センター センター長 瓜生原 葉子 氏
ソーシャルマーケティングによる行動変容と共創
【発表要旨】



北大阪健康医療都市
健都



北大阪健康医療都市

健 都

(4) 第1回健都共創フォーラム発表の振り返り (15:10~15:20)

第1回共創フォーラム発表内容

主催者挨拶

- 摂津市 保健福祉部理事 平井 貴志

「健都での共創の取組み」説明会

- 吹田市 健康医療審議監 岡 大蔵

「健都の概要（集積機関、取組等）の紹介」

- 国立研究開発法人国立循環器病研究センター 産学連携本部長 浅野 滋啓
「国立循環器病研究センターにおけるオープンイノベーションの取組みと展望」

- 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 研究企画評価主幹 瀧村 佳代
「国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所の概要と最近の動向について」



- 大阪大学大学院歯学研究科附属イノベティブ・デンティストリー推進センター教授・センター長 十河 基文 氏
「口から元気に！「高齢者フレイル見張り番・社会システム」の構築を夢見て」

- エア・ウォーター株式会社 技術戦略センター 事業戦略部 今井 美由紀 氏
「暮らしに寄り添う、ウェルネス事業の地・健都」

- 大阪経済大学 人間科学部 教授 高井 逸史 氏
「コロナ禍における新たなフレイル予防戦略」

- グンゼ株式会社 QOL研究所 企画調査室 室長 上島 進 氏
「メディカル（医療）とフィットネス（スポーツ）の融合による新しいヘルスケアビジネスの創出に向けて」

- 株式会社 日新システムズ システム・ソリューション事業部 プロダクト開発 室長 柏木 良夫 氏
「Society 5.0の実現に向けたスケーラブルな国際標準無線通信規格とアプリケーション」

- 株式会社リージャー デメカル事業部 営業担当部長 柏木 久史 氏
「ヘルスケアイノベーション『遠隔採血検査を用いた健都としての価値づくり』について」

第1回、第2回 発表者、専門家、他を含めたディスカッション (15:20~15:55)

- 大阪大学大学院歯学研究科附属イノベーティブ・デンティストリー推進センター教授・センター長 十河 基文 氏
- 大阪経済大学 人間科学部 教授 高井逸史氏
- グンゼ株式会社 QOL研究所 企画調査室 室長 上島 進 氏
- 株式会社 日新システムズ システム・ソリューション事業部 プロダクト開発 室長 柏木 良夫 氏
- 株式会社 リージャー デメカル事業部営業担当部長 柏木 久史氏

- 大阪産業大学工学部・教授・工学博士（株式会社オーエスユー代表取締役） 山田 修 氏
- 大日本印刷株式会社 包装事業部 イノベーティブ・パッケージングセンタービジネスデザイン本部 今井 涼介 氏
- 大阪成蹊大学 経営学部 教授 植田 真司 氏
- 日本笑いヨガ協会 代表 高田 佳子 氏
- 日本笑いヨガ協会 代表 高田 佳子 氏
- 共和メディカル株式会社 代表取締役 杉浦 万正 氏
- 株式会社ライフイノベーション 常務取締役 杉山 純一 氏
- 株式会社テルミーソリューションズ 代表取締役社長 山本 光平 氏
- 同志社大学ソーシャルマーケティング研究センター センター長 瓜生原 葉子 氏



北大阪健康医療都市
健 都



(6) 試行的研究会説明とアンケートのお願い

アンケートの記載フォームのURLは、
健都共創フォーラム終了後に「退出」のボタンを押した後、
そのまま、お待ちください。

参加者全員にメールにてお送りいたします。
ご記載のご協力、宜しくお願い致します。

アクセス不可能な方、ZOOM画面を×にした方には、
Word-dataの送信も行います。

締切日は、7月12日（月）までとさせていただきます。

1. 健都産学官民共創フォーラム、及び、共創プラットフォームでの活動についての関心や参加意思
2. 共創プラットフォームについて
3. テーマ別の研究会（試行的研究会含む）に対する関心や参加意思
4. 健都の機能や地域へのご関心、活用・進出について
5. 国立循環器病研究センターにおけるオープンイノベーションの取組みについて
6. 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所と研究所の健都での取組みについて
7. ～15. 健都共創フォーラムでの本日の発表者(9者)について
 - ①関心あるので共創したい（具体的な案件あれば）
 - ②関心はあるので共創提案となる自社の発表をしたい
 - ③関心はあるので研究会が出来れば参加したい
 - ④関心はあるが研究会には参加しない（理由があれば）
 - ⑤関心はない
16. 新たな研究会テーマの希望、また提案する自社の研究技術や製品、事業、フィールド等の発表の意思と内容
17. 吹田市、摂津市でのリビングラボフィールドをお持ちの方に
（地域の開発案件、施設、事業所、自治会、地域活等主体等）
18. ソーシャルコミュニケーションや(無関心層などへの)行動変容に結び付く活動への関わりについて
19. 共創のための機能として求めるもの（産学連携や企業連携、地域連携、実証フィールド等）
20. その他、自由記載



**第2回健都共創フォーラム
最後までご参加頂きありがとうございました。**

**次回の試行的研究会のご案内は
参加者全員に、送らせていただきます。**

試行的研究会へのご参加も、お待ちしております。